

令和6年10月3日

立田幼稚園

立田幼稚園 令和5年度自己評価の報告

令和5年度の自己評価結果について、学校法人立田学園理事会（令和5年5月26日）実施にて報告を行った。概要を以下に記述する。

令和4年度に引き続き、令和5年度も重点的に取り組むべき内容を『人権を尊重した保育の実践』とした。相変わらず「不適切な保育」のニュースが取り上げられ、それが県内の施設でも起きていたりする。絶対に他人事としてはならず、我が園を振り返り必要があると考え、この内容を継続して取り上げた。子どもにも同僚に対しても人権を尊重した関わりが必要であることを確認し、望ましくない関わりがあるならば無くしていかなければならない。

令和5年度も園内研修を実施し、まず「立田幼稚園らしさ」を確認し、共有した。「立田幼稚園らしさ」は人権擁護のもとにある。立田幼稚園らしい保育の実践は、『人権を尊重した保育の実践』である。立田幼稚園らしさをしっかり捉えることが人権擁護の考えにつながる。

次に、人権擁護の観点で「子どもに接する際に大事していること」「職場の人間関係において大事にしていること」と、更には「他の教師の気になる（望ましくない）行動」について書き出した。更に、その内容を全教職員で共有した。

「子どもに接する際に大事していること」「職場の人間関係において大事にしていること」については大切なことがたくさん書かれており、自分に足りていないことは取り入れていくよう促した。

「他の教師の気になる（望ましくない）行動」についても全員で確認した。良くない行動を見かけても直接伝えるのはなかなか難しいものである。直接伝えられなければ管理職に報告することとしているが、それも告げ口のように躊躇してしまう職員もいる。今回、誰の行為であるか書かずに気になった行動のみを記述するアンケートにしたことで、他者の気になる（望ましくない）行動が上がってきた。

自分の行動かもしれない謙虚に確認することができただろうか？正しいと思って取った行動でも他者は良くない行動として見ていることに気付けただろうか？気付いたならば、望ましい関わり方に置き換えただろうか？管理職は、望ましくない行動が継続されていないかしっかりと観察し、継続されている場合には、その行動をとる原因を見極めて必要な改善をし、本人に直接指導をしなければならない。

年度終了後に「子どもの人権・職場の人権を尊重するために、何を大切にして、どのようなことに気を付けて行動すべきか？」を全員が記述して、一年間のまとめとした。

国際化、多様化が進んでおり、その点においても人権擁護の意識を高めることは必要である。人権侵害につながる行動は絶対に抑止しなければならない。今後も人権について全教職員で繰り返し確認していく。